

英文校閲の実際 第10話

——「最少語数の表現が最善である」は常に正しいか？

Nohynek は毒性試験の英文報告書の書き方に関する著書¹⁾の中で、「英文報告書では、同じ内容を表現する複数の文章がある場合、語数が最も少ない文章が最善である」と書いています（以下、Nohynek の法則という）。この法則がどの程度研究者に浸透しているかを検討します。

文例 2 2 : Preliminary Two-Week Oral Toxicity Study of ABC-123 in Rats,
Results より (1/5)

(校閲前原文) : ① No animals died during the experimental period, ② and there were no treatment-related changes in clinical signs, food consumption and hematology.

③ A decrease in body weight gain was observed in females in the 100 mg/kg group on Day 7. ④ In blood chemistry, there was a decrease in potassium in females in the 100 mg/kg group.

(和文) : ①試験期間中の死亡動物はなかった。②一般状態、摂餌量、血液学的検査に関しては投薬に係る変化は観察されなかった。③100 mg/kg 群の雌に体重増加の抑制が試験の第7日に認められた。④血液生化学検査では、100 mg/kg の雌にカリウムの減少が認められた。

(校閲後) : ① No animals died during the experimental period, ② and there were no treatment-related changes in clinical signs, food consumption and hematology. ③ Body weight gains were decreased in females in the 100 mg/kg group on Day 7.

④ In the blood chemistry results, potassium was decreased in females in the 100 mg/kg group.

(解説) ①と②は問題なし。③の原文 “A decrease in body weight gain was observed” が “Body weight gains were decreased” に修正されています。原文は可算名詞 “decrease” (減少) を主語にしたため、不定冠詞 “A” が必要になり、更に述語として動詞の受動態 “was observed” が必要となるため、8語の文語的表現になりました。これに対し校閲者は “Body weight gains” (体重増加) を主語にし、形容詞 “were decrease” (減少した) を述語にしたため、同じ内容を5語で表現しています。すなわち、この修正は前述の「Nohynek の法則」を満たしています。

さて、この修正に関して、「原文は語数が多く文語的な悪文なので、校閲者は語数が少ない優れた英文に修正した」と説明して、これで一件落着とすれば話は簡単です。しかし、そのためには、現代では校閲者による修正後の文章のような簡潔な表現、すなわち、「Nohynek の法則」を満たす文体が主流になっていることを確認する必要があります。そこで Google USA のフレーズ検索²⁾を用いて、原文の表現と校閲者の表現の使用頻度を比較してみました。

A. (原文) “A decrease in body weight gain was observed” のヒット数: 87,500 件

B. (校閲後) “Body weight gains were decreased” のヒット数: 10,700 件

予想に反し、A. の SD による原文の方が、B. の校閲者による修正後の文章よりも、約8倍もヒット数が多いことは驚きです。この結果が「Nohynek の法則」に反しているからです。

しかも、原文の冒頭の不定冠詞 “A” を削除して検索すると、ヒット数は 124,000 件と、校閲

者による文体の約 12 倍に増加しました。ヒットした文献をチェックすると、ヒット数が 4 万件も増えた理由が分かりました。不定冠詞 “A” の代わりに形容詞 “Significant” を修飾語とする、次のような文章もヒットしていました：

“Significant decrease in body weight gain was observed in male rats at 250 mg/kg.”

余談ですが、上記の英文中の、“decrease in body weight gain was observed” が太字になっていますが、これらを太字にしたのは筆者ではなく、Google USA の検索機能の一部です。Google USA のフレーズ検索では、無数の文献の中から検索に用いたフレーズと一致するフレーズが自動的に検索され、太字化され、その前後の数行とともに表示されます。この機能により、太字部分を見ていけば検索に用いたフレーズと一致するフレーズがひと目で確認できます。

以上の検索結果から、以下の 3 つのことが言えます：(1) 最少語数の表現が最善であるとする Nohynek の法則は必ずしも研究者に受け入れられていない。(2) 英米人校閲者によって修正された SD の原文が必ず間違っている（＝世間に通用しない）とは限らない。(3) 自分が書いた英文が正しい（＝世間に通用する）かは、Google USA のフレーズ検索を使えば、自分で確認できる。

次に、④の “In blood chemistry,” が “In the blood chemistry results,”（血液生化学検査の結果では）に修正されました。“the” が追加された理由は、この試験に限定しているからです。また、“results” が追加された理由は “blood chemistry” が学問名なので、原文では「血液生化学（という学問）では」の意味になるからです。

次の例文 23 は、校閲者による修正が実に 15 箇所にあつた典型的な「日本人の英語」的悪文です。15 箇所のうちの何箇所気がつくか、実力テストのつもりで校閲前原文を読んでみてください。

文例 23 : Preliminary Two-Week Oral Toxicity Study of ABC-123 in Rats,

Results (2 / 5) Organ weights より

(校閲前原文) : ⑤ In organ weight, an increase in relative weight of the liver and decrease in absolute weight of the ovaries were observed in females at 10 mg/kg or more, ⑥ and adrenals weight was increased in females in the 100 mg/kg group. ⑦ However, the changes in the liver and ovaries were not considered to be treatment-related, because there were no statistically significant differences in absolute liver weight or relative ovary weight, ⑧ or no abnormalities in liver and ovaries at necropsy and histopathology.

(和文) : ⑤器官重量では、肝臓の相対重量の増加と、卵巣の絶対重量の減少が 10 mg/kg 群以上の雌に認められ、⑥そして、副腎重量が 100 mg/kg 群の雌で減少した。⑦しかしながら、肝臓と卵巣の変化は、肝臓の絶対重量と卵巣の相対重量に統計学的有意差がなかったことと、⑧剖検及び病理組織学的検査で異常がなかったため、投薬と関連した変化とはみなされなかった。

(校閲後) : ⑤ In the organ weights, the relative weights of the liver were increased and the absolute weights of the ovaries were decreased in females at 10 mg/kg or more, ⑥ and the adrenal weights were increased in females in the 100 mg/kg group. ⑦ However, the changes in the livers and ovaries were not considered to be treatment-related, because there were no statistically significant differences in absolute liver weights or relative

ovary weights, ⑧ nor any abnormalities in the livers or ovaries at necropsy and histopathology.

(解説) まず、“In organ weight,” が “In the organ weights,” に修正されています。“the” が追加された理由は、この試験に限定された検査結果だからです。“weights” と複数形に修正された理由は、動物数も臓器数も複数であり、臓器重量も当然複数だからです。

次に、原文⑤の主語は “an increase in relative weight of the liver and decrease in absolute weight of the ovaries” と、16 語もあり長すぎます (正確には2箇所 “the” が抜けているので実際は18語)。日本語は往々にして主語が長くなりますが、その理由には、日本語では構造的に述語が最後に置かれること、主語に長い修飾語が付く場合、それがどんなに長くても主語の前に置かれること、また、日本語は、歴史的に物事を簡潔に表現する方向でなく、婉曲に表現する方向に発達してきたために、主語に付く修飾語が多くなることなどが関係しています³⁾。このため日本人は、例えば例文23の⑤の原文のように、主語が長過ぎても殆ど気になりませんが、英語を書くときはこの日本語的感覚を捨て、主語を可能な限り短くする必要があります。

原文⑤の主語が長くなった理由は簡単です。「肝臓の相対重量の増加」と「卵巣の絶対重量の減少」は、相反する所見なので、本来は別の文章にすべきところを、SDは必要もないのに両方を “and” でつないでわざわざ1つの長い主語にしているからです。校閲者は、原文⑤を所見別に2つの文章に分割しました。すなわち、“the relative weights of the liver were increased” (肝臓の相対重量が増加した) と、“the absolute weights of the ovaries were decreased” (卵巣の絶対重量が減少した) の2つの文章に分割して、それらを “and” でつないで、単純で分かり易い複文に修正しました。

次に原文⑥で “SD は “weight” を主語にしています。このこと自体は問題ないのですが、前の原文⑤で “increase” や “decrease” を主語にしているので、文体を変えたこととなります。英文報告書では、理由もなく文体を変えると、かえって論理的に首尾一貫性がなく、雑な印象を与えます。しかも原文⑥の、“adrenals weight was increased” は、形容詞を複数形にし、複数形にすべき主語と述語を単数形にすることで、文法的誤りを3つ重ねています。校閲者は “adrenal weights were increased” (副腎重量が増加した) に修正しました。⑦「However, the changes in the livers and ovaries」 と、liver は複数形 livers でないといけません。複数の動物がいるので、肝臓も複数だからです。その証拠に、その先の⑧では、「⑧ nor any abnormalities in the livers or ovaries .」 と、「livers」 がちゃんと複数形になっています。

なお、原文⑤・⑥・⑦では “weight” は全て単数形ですが、これは日本人が英文を書く場合でも、対象の数を全く考慮せず、常に単数形でものを考えていることを見事に示しています。校閲者は合計6個の “weight” を全て複数形に修正しました。

⑧の原文 “or no abnormalities in liver and ovaries” の “or no” が “nor any” に修正されています。2つの否定文をつなぐ接続詞は “or” ではなく “nor” です。また、“in liver and ovaries” には、組織名の前に付けるべき “the” が抜けており、しかも、複数の動物の “liver” は複数なので、“in the livers or ovaries” とすべきでした。

(馬屋原 宏)

引用文献

- 1) Nohynek, G. J.: Presenting Toxicology Results, Taylor & Francis Ltd., London (1996)
- 2) 馬屋原 宏: 『誰でも書ける英文報告書・英語論文』、薬事日報社 (2008)

3) 馬屋原 宏：『日本人と英語』，薬事日報社（2016）